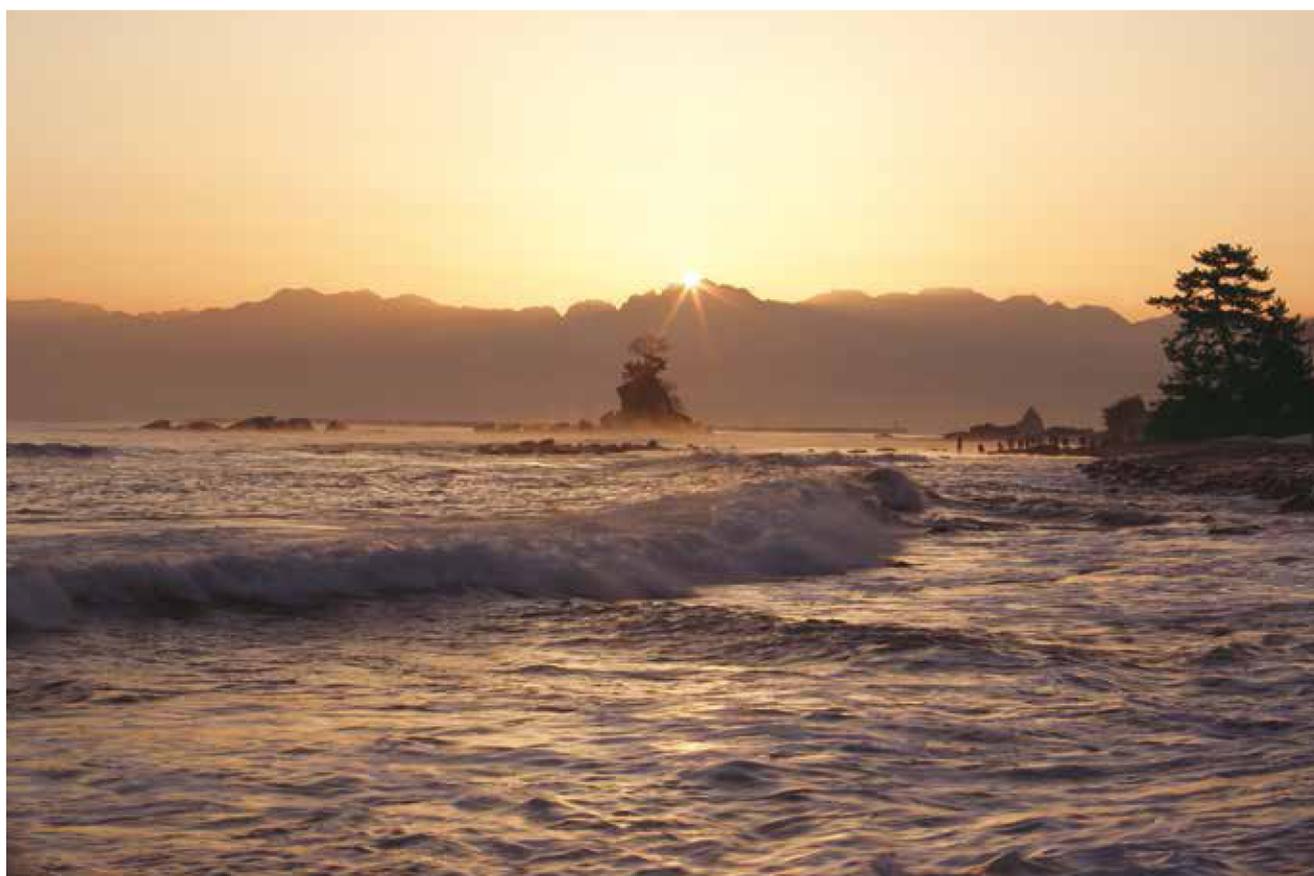


# 25年のあゆみ

富山県アイバンク25周年記念誌



公益財団法人 富山県アイバンク

25周年記念誌大会テーマ

# 愛の献眼 光リレー

公益財団法人 富山県アイバンク

# 大会プログラム

- ・日時 平成29年10月15日(日) 14:00~17:30 ※開場13:30
- ・会場 富山県民会館大ホール

13:30	受付	司会	松倉 美樹
14:00	開会宣言 黙禱・献花	大会実行委員長	磯野 敏雄

## 来賓ご紹介

大会テーマの発表	副大会長	伊勢 豊彦
大会長挨拶	富山県アイバンク理事長	大黒 幸雄
来賓祝辞	富山県知事	石井 隆一
	富山市長	森 雅志
	ライオンズクラブ国際協会 334-D地区ガバナー	藤弥 一司

## 祝電披露

厚生労働大臣感謝状伝達・授与	富山県知事	石井 隆一
富山県アイバンク功労者感謝状授与	富山大学医学部眼科診療准教授	柳沢秀一郎
	富山県ライオンズクラブ 奉仕銀行常任委員長	苗加 康孝
遺族代表の言葉	遺族	福田 靖子
閉会の辞	大会副実行委員長	木村 正明

(休憩)

15:55	開演の辞	式典・会場委員会委員長	門前 昌志
-------	------	-------------	-------

## 記念講演

演題 「板東英二のがむしゃら人生」  
講師 板東 英二氏

## 閉演の辞

副大会長 野村 謹吉

【主催】 公益財団法人 富山県アイバンク

【共催】 ライオンズクラブ国際協会334-D地区

【後援】 富山県、富山市、日本アイバンク協会、富山県医師会、富山県眼科医会、  
富山県善意銀行、富山県社会福祉協議会、日本赤十字社富山県支部、富山県看護協会、  
富山県介護福祉士会、北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞北陸支社、  
中日新聞社北陸本社、朝日新聞富山総局、毎日新聞社富山支局、  
FM富山放送局、北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、ケーブルテレビとやま、FMとやま、  
ラジオたかおか、富山シティエフエム

# 厚生労働大臣感謝状受章者

■ 平成28年9月から平成29年8月まで

献眼年月	献眼者ご芳名	地区	献眼年月	献眼者ご芳名	地区
平成28年9月	島田美津子様	黒部市	平成29年3月	飯田 和夫様	砺波市
10月	柳沢須実恵様	射水市	3月	西浦 義松様	魚津市
10月	匿名希望	上市町	3月	秋山真佐代様	富山市
10月	常木千穂子様	南砺市	4月	小泉 梓様	富山市
11月	二上登土春様	射水市	4月	藤井真由美様	富山市
11月	匿名希望	群馬県	4月	匿名希望	富山市
11月	大久保秀雄様	富山市	4月	谷 和子様	魚津市
11月	小澤 高枝様	高岡市	4月	松井 紫乃様	富山市
11月	大浦 啓子様	富山市	5月	福田 孝義様	射水市
12月	堀田 輝人様	上市町	5月	上野 茂様	魚津市
12月	浦 春子様	射水市	6月	米田 卓矢様	富山市
12月	匿名希望	高岡市	7月	匿名希望	富山市
12月	匿名希望	富山市	7月	浅野 紀夫様	富山市
12月	匿名希望	富山市	8月	匿名希望	高岡市
12月	木下とみ子様	高岡市	8月	飯島美砂乃様	富山市
12月	吉崎 昭子様	魚津市	8月	若井須美子様	高岡市
平成29年2月	匿名希望	富山市	8月	南部 尚次様	南砺市
3月	匿名希望	富山市	8月	匿名希望	富山市

## 設立25周年記念講演 開演時間 15:55~

### ◆演題 「板東英二のがむしゃら人生」

### ◆講師 板東英二氏



#### 講師プロフィール

生年月日 昭和15年4月5日(1940年)  
 出身地 旧満州国  
 出身校 徳島県立徳島商業高等学校  
 高校時代 昭和33年 夏の甲子園、第40回記念大会準優勝投手  
 プロ野球 昭和34年 準々決勝、対魚津高戦(延長18回引分け翌日再試合)板東VS村椿  
 当大会奪三振83個(現在も記録)  
 中日ドラゴンズ入団(11年間に在籍435試合)  
 77勝65敗 防御率2.89 オールスター出場3回  
 現在まで 昭和45年~ 中部日本放送(CBC)野球解説者  
 昭和56年~ サンケイスポーツ新聞 野球評論家  
 昭和63年~ 毎日放送(MBS)野球解説者  
 東宝映画「あ・うん」にて下記賞受賞  
 平成1年 日刊スポーツ映画大賞助演男優賞  
 平成2年 ブルーリボン最優秀助演男優賞  
 平成2年 第13回 日本アカデミー賞最優秀助演男優賞

---

---

## 富山県アイバンクの概要

---

---

### 【アイバンクの事業三原則】

十分な提供者を確保する

安全な角膜を提供する

公平・公正に提供する

現在の角膜移植医療においては、提供された角膜を用いて移植を行うことが唯一の方法です。

昭和33年に「角膜移植に関する法律」が施行されて以来、岩手医科大学、慶応大学、順天堂大学に続き全国にアイバンクが設立されました。

富山県においては昭和38年10月10日“眼の愛護デー”を記念して富山県善意銀行内にはじめて眼球預託口座が設けられました。

その後、角膜移植についての正しい知識の普及、眼球提供者の登録、緊急に手術を必要とする患者に対する眼球の斡旋の業務を行うため、富山県民の福祉の増進を図るため、眼球斡旋機関として(財)富山県アイバンクが平成3年12月に富山県から1,000万円、富山県内のライオンズクラブから4,000万円、計5,000万円を基本財産として設立されました。

---

---

## 富山県アイバンクの仕事

---

---

### 【公益目的事業】

#### 眼球のあっせん等に関する事業

厚生労働省より「眼球提供あっせん業」の許可を頂き、角膜疾患の方々が再び光を取り戻すことができるように、角膜提供者を募集し、登録業務などを行うとともに、移植希望されている方々の登録、提供いただいた角膜の移植を希望する方へのあっせん事業を行っています。

- (1) 献眼する者の募集及び登録に関する事業
- (2) 提供される眼球の摘出、検査、保存及びあっせんに関する事業
- (3) 献眼及び角膜移植に関する知識の普及啓発事業

#### 眼の衛生に関する普及啓発事業

- (1) 広報誌の発行事業
- (2) 眼の衛生に関する啓発事業

## 目 次

設立25周年記念大会大会プログラム	2
富山県アイバンクの概要	4
ごあいさつ	公益財団法人 富山県アイバンク理事長 大黒 幸雄 …… 6
祝 辞	富山県知事 石井 隆一 …… 7
	富山市長 森 雅志 …… 8
	公益財団法人 日本アイバンク協会理事長 澤 充 …… 8
	ライオンズクラブ国際協会334-D地区ガバナー 藤弥 一司 …… 9
	公益社団法人 富山県善意銀行理事長 河合 隆 …… 9
	公益社団法人 富山県医師会会長 馬瀬 大助 …… 10
	富山県眼科医会会長 狩野 俊哉 …… 10
献眼者、開眼者の皆さま	11
献眼者ご芳名	12
献眼者ご遺族の手記	14
開眼者の手記	21
富山県アイバンクの歩み	23
1991年～2012年	24
2012年9月～2017年8月	26
献眼へのメッセージ	28
資料 富山県の年度別・献眼登録者及び献眼者数の推移	32
全国の年度別・献眼登録者及び献眼者数の推移	32
全国アイバンク一覧表	33
公益財団法人 富山県アイバンク設立25周年記念大会組織図	34
賛助会員ご加入および寄附金・募金のお願い	35
編集後記	36

表紙写真：雨晴海岸の朝日

## 公益財団法人富山県アイバンク 設立25周年を迎えて

公益財団法人  
富山県アイバンク理事長

大黒 幸雄



本日、極めてご多忙に関わらず、富山県知事石井隆一様始め多数のご来賓の参加を頂き、また、これまでご献眼頂いたご遺族の方々、そして、我々の母体である富山県ライオンズクラブスタッフ各位等多数の方々のご参加を頂き、設立25周年の記念式典を迎えることが出来ましたこと、心からの感謝を申し上げます。

富山県アイバンクは平成3年に富山県の承認を頂き、平成4年厚生労働省より許可があり、正式に発足いたしました。

今から228年前、フランスでガラスによる角膜移植の実験が行われ、水晶・<sup>べっ</sup>鼈<sup>こ</sup>甲・猫・犬等からの移植を試みるもすべてが失敗に終わり、人から人への移植しか出来ない旨が世界の眼科医会に報告されました。その後今から112年前（1905年）に日本の水尾源太郎博士が、1926年に越智貞見博士が生体からの移植実験に成功いたしました。日本が世界に誇る一大成果でありました。

これにより世界の角膜移植は大きく前進し、世界的な活動となりました。この時有名なヘレン・ケラー女史はライオンズクラブが世界への奉仕活動を目指している努力に着目し、今から92年前（1925年）、第6回ライオンズクラブ国際大会に特別講演をされ、この大会で視力保護福祉問題を世界的に展開する決議がなされました。そして、現在に至っており、私たちはその精神に立ち努力をいたしております。

この25年の間、20,535人の方から献眼登録を頂き、428人の方の献眼頂くことが出来、718人の方々の社会復帰へのお手伝いをいたすことが出来ました。

今から60年前（1957年）、岩手医科大学の今泉教授が、若い前途有望な少女の失明を助けるべく、まだ国が決めかねている角膜移植を行い、法律に抵触した手術を行ったとの新聞報道で、法的な問題となりましたが、最高検察庁が、道徳的・人道的に見て犯罪の成立はしないと、むしろ早期決定が無いことに罪があるのではの見解発表で、一気に角膜移植が脚光を浴びることとなりました。

そして、多数の方々の、献眼へのご理解が増えていることを感謝申し上げており、またこの間、富山県のご指導で、総合病院等での臓器移植院内移植コーディネーターが組織され、その結果これまで以上の献眼がいただけるようになりました。

これら行政や日本アイバンク協会等のご努力で法的整備が急速に進み、この結果私共の運動も実績効果が上がって参っております。

関係機関のご指導の下、アイバンクの実績を上げ、ライオンズ活動の原点的なこの事業をますます強固なものとし、県民の皆さんへの奉仕活動をお約束し、挨拶いたします。

## 公益財団法人富山県アイバンク 設立25周年記念誌に寄せて



富山県知事  
石井 隆一

このたび、公益財団法人富山県アイバンクが設立25周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴財団には、平成3年12月の設立以来、会員相互の固い結束のもと、献眼登録の普及啓発、角膜移植者の募集登録、医療機関との連携など幅広い活動を通して、地域保健医療の充実向上に多大なご貢献をいただいています。

ここに、大黒理事長をはじめ、歴代役員並びに会員の皆様の長年にわたるご努力に対し、心から敬意を表し、感謝申し上げます。

また、これまでの皆様の献身的なご活動の結果、献眼により718人の皆様が喜びの灯を取り戻されていると聞いています。献眼をされた皆様と、悲しみを乗り越えてご理解、ご協力をいただいたご遺族の皆様に対し、深く敬意を表します。

さて、平成22年7月に「臓器の移植に関する法律」が改正され、親族に対し臓器を優先的に提供する意思を書面により表示できるようになり、さらに本人の臓器提供の意思が不明な場合にも、家族の承諾があれば臓器提供が可能になりました。さらに、近年、臓器提供意思表示カードに加え、運転免許証やマイナンバーカード等に臓器移植に関する意思の記入欄の設置が進められているなど、臓器移植を取り巻く環境は大きく変化しています。

こうしたなか、県では、病院内で移植の調整役を務める「臓器移植院内コーディネーター」の委嘱や連絡会の開催により、その活動を促進するとともに、関係各病院にポスター、リーフレットを配布するなど、アイバンク事業等への活動支援や県民への普及啓発に積極的に取り組んでいるところです。

どうか、貴財団には、このたびの設立25周年を契機として、角膜移植を望まれる方が一人でも多く移植を受けられ、視力が回復するよう、今後とも献眼思想の普及啓発と登録の推進に、一層のご尽力をいただきますようお願い申し上げます。

また、この記念誌の発刊により、献眼していただいた皆様の崇高なご遺志が末永く受け継がれ、献眼の輪がさらに大きく広がることを願ってやみません。

結びに、公益財団法人富山県アイバンクの限りないご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍、ご多幸を心からお祈り申し上げます。

## 公益財団法人 富山県アイバンク 設立25周年を 祝して

富山市長

森 雅志



公益財団法人富山県アイバンクが設立25周年を迎えられ、ここに記念誌が刊行されますことは誠に喜ばしく、心からお祝いを申し上げます。

貴財団におかれましては、角膜移植の普及啓発をはじめ、献眼者の登録や角膜の斡旋など、地域医療の発展と社会福祉の向上に大きく貢献してこられました。

これも偏に、歴代役員や関係の皆様のご長年にわたる献身的なご尽力の賜物であり、不断のご努力に対し、敬意と感謝の意を表します。

また、崇高な志により献眼をされました方々に、衷心より哀悼の意を表しますとともに、深い悲しみを乗り越えて献眼へのご理解とご協力をいただきましたご遺族の皆様にも深く敬意を表する次第です。

さて、角膜移植により多くの方々の方が光を取り戻されており、今後も角膜移植をはじめとする移植医療の更なる発展が期待されております。

本市では緑内障検診を実施し、疾病の早期発見、早期治療に努めるとともに、市民一人ひとりが主体的に生活習慣の改善や健康の保持増進に取り組むことにより、生活の質の向上が図られるよう、健康づくりと融合したまちづくりに取り組む所存です。

貴財団におかれましては、この記念すべき節目の年を新たな飛躍の契機とされ、今後とも角膜移植の普及啓発に一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、公益財団法人富山県アイバンクの限りないご発展と、皆様方のますますのご健勝、ご多幸を祈念申し上げます、祝辞といたします。

## 公益財団法人 富山県アイバンク 25周年に寄せて

公益財団法人  
日本アイバンク協会理事長

澤 充



公益財団法人富山県アイバンクは平成3年12月に富山県内のライオンズクラブが中心となり富山医科薬科大学（現：富山大学医学部）眼科学教室および富山県の協力のもと、全国で46番目のアイバンクとして設立されました。事業として献眼者の篤志の啓発により、角膜移植を必要とする視力障害者の視力回復、クオリティオブライフ（QOL）向上のために3本の柱として「十分な提供者の確保」、「安全な角膜の提供」および「公平・公正なあっせん」を掲げられておられます。これに基づいて現在まで地域の催しを通じての献眼登録の推進、積極的な病院開発とともに医療関係者へのアイバンクの講習と臓器移植院内移植コーディネーターの設置、さらには広域あっせんに関して中核アイバンクのみならず全国のアイバンクにアイバンク情報システムを活用するなど地道かつ先進的な取り組みをなされてこられました。

大黒理事長におかれましては長年、日本アイバンク協会の役職を務められるとともに、サポーター講習会、アイバンクジャーナルを通じて全国のアイバンクの指導にあたってこられました。

今回、富山県アイバンクが25周年を迎えられましたことに対して日本アイバンク協会を代表して感謝と深甚なる敬意を表させていただきます。

## ご祝辞



ライオンズクラブ国際協会  
334-D地区 地区ガバナー

藤弥 一司

この度、公益財団法人富山県アイバンクが設立25周年を迎えられ盛大な記念式典を開催されますこと、心からお祝い申し上げます。

貴財団におかれましては、平成3年12月の設立以来、会員相互の固い絆のもと、献眼登録の普及啓発、角膜移植者の募集登録、医療機関との連携など広範囲な活動を通して、地域保健医療の充実向上に多大なご貢献を頂いていますこと富山県、石川県、福井県をエリアとするライオンズクラブ国際協会334-D地区98クラブ、約3,800人の会員を代表して重ねてお慶び申し上げます。

ライオンズクラブでは1925年アメリカで、ヘレン・ケラー女史が盲人のための援助を訴えて以来ライオンズにとって視力保護活動・視覚障害者福祉が最優先の奉仕事業となっております。貴富山県アイバンクにおかれましては、平成21年には富山県内では初めての公益財団法人に移行されより公益性の高い、より信頼される組織へと発展し続けております。

ここに大黒理事長をはじめ、歴代役員並びに会員の皆様方の長年にわたるご努力に対し心から敬意を表します。

又、貴財団が設立以来25年間多くの方々から尊い献眼を頂き多くの人々が希望の光を取り戻すことが出来ました。

これもひとえに富山県アイバンクの皆様のご努力の賜物と深くお礼申し上げます。これを契機に、県民の皆様により一層の理解を頂き、更に献眼活動が充実発展されることをご祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

## 25周年、更なる 飛躍へ



公益社団法人  
富山県善意銀行理事長

河合 隆

この度、公益財団法人富山県アイバンクが設立25周年を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。

昭和33年に「角膜移植に関する法律」が施行されて以来、全国にアイバンクが設立されました。富山県においては同38年10月10日「眼の愛護デー」を記念し、設立されたばかりの富山県善意銀行内にはじめて眼球預託口座が設けられました。

平成3年には、「十分な提供者の確保」、安全な角膜の提供、公平・公正な斡旋を三原則とする財団法人富山県アイバンクが設立されました。

角膜移植の普及啓発活動、献眼登録推進運動などを広く推進され、地域医療の発展と健康・福祉の向上に大きく貢献してこられました。角膜移植によって多くの患者さんが光を取り戻されており、その重要性はますます増大するものと思われまます。

しかし、現在の社会情勢を見渡しますと、世界中で狭量なナショナリズムが台頭し、従来から掲げられてきた理想と激しくぶつかっています。このような風潮の中、アイバンクや善意銀行の根幹である「他者への思いやり」が揺らぐのではないかと危惧しています。

共に支え合う社会の実現に向け、皆さまと一緒に歩んで参りたいと願い、お祝いの言葉といたします。

## 法人設立25周年を 祝う



公益社団法人  
富山県医師会会長  
馬瀬 大助

このたび、公益財団法人富山県アイバンクが法人設立25周年を迎え記念誌を発刊されるにあたり、富山県医師会を代表して一言お祝いの言葉を申し上げます。

富山県における献眼運動は、昭和38年10月10日、県善意銀行内に「眼球預託口座」が設けられて以降、知識の啓蒙普及、献眼者の募集登録等、関係者の方々の地道な活動により支えられてきました。平成3年12月に「財団法人富山県アイバンク」として正式に発足されてからは、一層充実した活動を続けられ、多くの方が失明の危機から救われました。現在、県内の献眼登録者は2万500人を超え、これまでに718人の方々が、献眼による角膜移植で光を取り戻して社会復帰しておられます。これもひとえに、理事長様をはじめ関係の皆様方の献身的な活動と努力の賜物であり、心から敬意を表する次第であります。

しかし、待機患者数に比べ献眼数が少ないという現状があり、今後も協力医療機関における院内コーディネーターの方々の活動に大きな期待が寄せられます。

今、医療を取り巻く環境の変化はますます激しくなっておりますが、私共医師会は、よりよい医療を提供することを使命と考え、富山県アイバンクの皆様とともに、献眼登録推進普及運動を強く進めていきたいと思っております。

最後に、富山県アイバンクのさらなるご発展と、献眼という尊い意思決定をされました皆様のご冥福をお祈りいたしまして、設立25周年のお祝いの言葉といたします。

## 設立25周年記念に 寄せて



富山県眼科医会会長  
狩野 俊哉

富山県アイバンクが設立25周年を迎えられたとのこと、富山県眼科医会を代表しまして心よりお祝いを申し上げます。

富山県アイバンクは、関係諸団体の絶大なるご支援と富山大学眼科の献身的な努力、そしてコーディネーターの地道な活動に支えられ、着実にその歩みを進めてこられました。25周年の節目にあたり、あらためてその業績に敬意を表します。

近年、眼科の診療技術は大きく進歩し、無理と言われてきた疾患の治療も可能となりました。しかしながら、最新の治療を施しても角膜に強い混濁が残り、実用的な視力を失うことがあります。また、人生の途中で視力を失うということは、計り知れない精神的ストレスとなって重くのしかかります。このような状況の改善には角膜移植が極めて有効で、これまでも多くの方々が視力を取り戻しておられます。平成28年度には61名の角膜移植が行われ、実用的な視力を取り戻しておられます。角膜の幹旋は県内にとどまらず、全国の患者さんに提供されています。このような素晴らしい治療成果は、アイバンクの活動無くしては得られないことです。一人でも多くの献眼によって一人でも多くの方が光を取り戻されますよう願ってやみません。眼科医会としましても一層の啓発活動を行っていく所存です。

今後ますますのご発展をお祈りして、お祝いの言葉といたします。

## 献眼者、開眼者の皆さま

---

このたび、公益財団法人富山県アイバンク設立25周年記念にあたり、献眼をいただきました崇高なお心に感謝し、またご家族と関係者の方々の深いご理解とご協力に感謝し、ご芳名をご記帳させていただきました。

おかげさまでこの25年間、718人の方々が角膜移植手術を受けて光を取り戻し、社会復帰をされておられます。

ありがとうございました。ここに謹んで故人のご冥福をお祈りいたします。

※角膜移植を受けられた方々の人数は、平成29年8月末までの数です。

# 献眼者ご芳名

■平成24年8月から平成29年8月まで

献眼年月	献眼者名	地区
平成24年8月	中村みつ子様	高岡市
平成24年9月	地崎 俊子様	高岡市
平成24年9月	水原 尚美様	富山市
平成24年11月	菅野八千代様	黒部市
平成24年11月	匿名希望	氷見市
平成24年11月	松井 芳雄様	上市町
平成24年11月	匿名希望	富山市
平成24年11月	萩尾 政美様	高岡市
平成24年11月	境 富子様	砺波市
平成24年11月	森岡 洋子様	射水市
平成24年11月	藤木 郁子様	立山町
平成24年11月	石原 繁様	富山市
平成24年12月	源 真知子様	富山市
平成24年12月	岩黒 律子様	射水市
平成25年1月	長崎 信衛様	朝日町
平成25年1月	國分 敏夫様	高岡市
平成25年1月	石井 民様	射水市
平成25年1月	匿名希望	滑川市
平成25年1月	金丸 昭吉様	高岡市
平成25年2月	久保 清様	富山市
平成25年2月	古川 久信様	上市町
平成25年2月	戸田ヨシ子様	高岡市
平成25年3月	匿名希望	上市町
平成25年3月	林 松枝様	富山市
平成25年3月	井伊 昭夫様	射水市
平成25年3月	萩行 健一様	射水市
平成25年3月	坂下 浩二様	氷見市
平成25年4月	匿名希望	富山市
平成25年4月	酒匂 春雄様	高岡市
平成25年4月	灰田二三男様	射水市
平成25年4月	匿名希望	黒部市
平成25年5月	匿名希望	南砺市
平成25年5月	大田 正夫様	富山市
平成25年6月	乗舟 勝男様	射水市
平成25年7月	小林 潤子様	富山市
平成25年8月	匿名希望	富山市
平成25年8月	匿名希望	富山市
平成25年8月	南 華様	高岡市

献眼年月	献眼者名	地区
平成25年8月	匿名希望	氷見市
平成25年9月	境 正信様	砺波市
平成25年9月	匿名希望	氷見市
平成25年10月	匿名希望	富山市
平成25年10月	藤坂 紀様	氷見市
平成25年10月	井村東司三様	高岡市
平成25年11月	清河美智子様	魚津市
平成25年11月	老田正太郎様	富山市
平成25年11月	萩原 則義様	富山市
平成25年12月	堀井 弘昭様	富山市
平成26年1月	伊藤 利治様	黒部市
平成26年1月	田中 秀三様	高岡市
平成26年2月	大澤 すで様	魚津市
平成26年4月	関 昭一様	高岡市
平成26年5月	西田 修二様	立山町
平成26年5月	匿名希望	富山市
平成26年6月	三浦 光江様	富山市
平成26年7月	西能 孜様	南砺市
平成26年7月	匿名希望	高岡市
平成26年7月	匿名希望	富山市
平成26年8月	津島 博様	高岡市
平成26年9月	松本 進様	富山市
平成26年9月	橋詰 兼義様	魚津市
平成26年9月	池田 紀男様	富山市
平成26年10月	梶 智里様	高岡市
平成26年10月	宮内 久子様	富山市
平成26年10月	藤崎 治子様	富山市
平成26年10月	匿名希望	氷見市
平成26年11月	匿名希望	高岡市
平成26年11月	匿名希望	射水市
平成26年11月	山本まさ子様	高岡市
平成26年11月	櫻井 一郎様	南砺市
平成27年1月	金田 カノ様	富山市
平成27年1月	匿名希望	上市町
平成27年1月	松田 信子様	黒部市
平成27年2月	大浦アキ工様	黒部市
平成27年2月	匿名希望	射水市
平成27年2月	藤瀬 洋介様	富山市

献眼年月	献眼者名	地区
平成27年2月	西野 玲子様	富山市
平成27年3月	匿名 希望	富山市
平成27年3月	森 良雄様	富山市
平成27年5月	匿名 希望	富山市
平成27年5月	棚橋 夕二様	魚津市
平成27年6月	匿名 希望	高岡市
平成27年7月	廣野登志子様	富山市
平成27年7月	匿名 希望	富山市
平成27年7月	篠田幸一郎様	富山市
平成27年7月	中陳 千賀様	黒部市
平成27年8月	川岸 廣治様	富山市
平成27年8月	前田喜代志様	砺波市
平成27年8月	國分 笑子様	高岡市
平成27年8月	澤田 スイ様	高岡市
平成27年8月	武田 隆一様	富山市
平成27年9月	平井壽枝子様	氷見市
平成27年9月	筒井 俊三様	富山市
平成27年10月	匿名 希望	高岡市
平成27年11月	細田 和昭様	富山市
平成27年11月	林 實様	富山市
平成27年11月	中村 眞吾様	滑川市
平成27年12月	西島 政義様	入善町
平成27年12月	笹邊 貢様	南砺市
平成27年12月	長瀬美智子様	富山市
平成28年1月	榎谷 啓司様	富山市
平成28年2月	大間知 梢様	富山市
平成28年2月	匿名 希望	南砺市
平成28年3月	中村祐美子様	富山市
平成28年3月	大橋 義信様	高岡市
平成28年4月	鈴木 昭則様	高岡市
平成28年4月	匿名 希望	氷見市
平成28年5月	匿名 希望	氷見市
平成28年7月	福田 徳司様	氷見市
平成28年7月	匿名 希望	高岡市
平成28年8月	御器谷多子様	富山市
平成28年8月	匿名 希望	富山市
平成28年8月	玉井 行夫様	富山市
平成28年8月	斉藤 忠信様	富山市

献眼年月	献眼者名	地区
平成28年9月	島田美津子様	黒部市
平成28年10月	柳沢須実恵様	射水市
平成28年10月	匿名 希望	上市町
平成28年10月	常木千穂子様	南砺市
平成28年11月	二上登士春様	射水市
平成28年11月	匿名 希望	群馬県
平成28年11月	大久保秀雄様	富山市
平成28年11月	小澤 高枝様	高岡市
平成28年11月	大浦 啓子様	富山市
平成28年12月	堀田 輝人様	上市町
平成28年12月	浦 春子様	射水市
平成28年12月	匿名 希望	高岡市
平成28年12月	匿名 希望	富山市
平成28年12月	匿名 希望	富山市
平成28年12月	木下とみ子様	高岡市
平成28年12月	吉崎 昭子様	魚津市
平成29年2月	匿名 希望	富山市
平成29年3月	匿名 希望	富山市
平成29年3月	飯田 和夫様	砺波市
平成29年3月	西浦 義松様	魚津市
平成29年3月	秋山真佐代様	富山市
平成29年4月	小泉 梓様	富山市
平成29年4月	藤井真由美様	富山市
平成29年4月	匿名 希望	富山市
平成29年4月	谷 和子様	魚津市
平成29年4月	松井 紫乃様	富山市
平成29年5月	福田 孝義様	射水市
平成29年5月	上野 茂様	魚津市
平成29年6月	米田 卓矢様	富山市
平成29年7月	匿名 希望	富山市
平成29年7月	浅野 紀夫様	富山市
平成29年8月	匿名 希望	高岡市
平成29年8月	飯島美砂乃様	富山市
平成29年8月	若井須美子様	高岡市
平成29年8月	南部 尚次様	南砺市
平成29年8月	匿名 希望	富山市

※平成24年7月以前の献眼者の方々のご芳名は、富山県アイバンク10周年・15周年・20周年の各記念誌に掲載してあります。

# 献眼者ご遺族の手記

当アイバンクには、献眼者のご遺族から本当に感動的なお手紙をいただいております。是非数多くの方々に読んでいただきたいとの思いから、それを定期的に発行している「富山県アイバンクだより」に載せさせていただいております。

今回は特別によせられた手記、「富山県アイバンクだより」、平成27年に出版した「300字の遺言Ⅱ」から再掲させていただきました。

何卒、ご一読いただきますようお願い申し上げます。

## 「6人の目が、どこかで私を見つめている」

### I・A

母が献眼し、「男女2人の方に無事手術が終了しました」。

アイバンクからの知らせを受けた時、改めて両親、そして妻の献眼のことを深く心に刻む思いが胸によみがえりました。長くアイバンクにかかわった父は、いつも「献眼は誰にでもできる人生最後の奉仕」と語っていました。その父の言葉で、献眼登録をした方もいらっしゃいました。

ある友人が「私の母は昔のことだから、学校へもあまり通学せず、家の手伝いに追われていた。だから新聞を読む習慣がなかった。献眼をしたから、家族で『おふくろの目が新聞を読んでいる』とよく話している」と、そんな話をしてくれたこともあります。目に光がよみがえる。その意義は献眼者の遺族にも、大きな何かを残してくれるのだと思います。

角膜提供を受け、光がよみがえったある方の喜びの文章を読みました。

「ありがとうございます。よく見えます。東西南北どちらを向いてお礼を言えばいいのでしょうか。これからはあなたの分まで美しいものを、きれいなものを見つめます。あなたは絵がお好きでしたか。今度の展覧会では、あなたと一緒に美しい作品、すばらしい作品を見つめましょう」。

この文に光がよみがえる感動、献眼の意義が込められていると思います。

私も父と母、妻の献眼で6人の方の目を通して世の中を見つめている。また、私を監視している。そんな気持になります。監視されても恥じないように、両親と妻にそんなことを語りかけています。



## 「献眼」への妻の想いは？

御器谷正人

数年前のある日、妻が突然私に聞いてきました。「アイバンクに登録しようと思うけど、いい？」と。一度言い出したら譲らない性格であることは分かっていたので、私は一言「いいと思うよ。」と答えました。そして、そんなことがあったことも忘れかけていた、またある日、「アイバンクに登録してきたから、もし、私が先に死ぬことがあったら、絶対、手続きを忘れないでね！」と言いました。この言葉だけは、ずっと私の心の中に残りました。



息子さんの結婚式

妻がなぜ、アイバンクに登録し、「献眼」することにこだわったのかは、深く話し合ったことも無く、本当のところは今でも分からないままです。

ただ、その時は、実際に「献眼」する日がこんなに早く来ることになるとは、妻も私も全く夢にも想っていませんでした。

平成28年8月5日の朝、妻は、あっという間に逝ってしまいました。肺腺癌ステージIVと診断されてから1年数カ月、61歳の誕生日からわずか2週間でした。

アイバンク登録の事実と「献眼」の意思を、私から主治医にお伝えしたのは、亡くなる2日前でしたが、入院していたのがたまたま富山大学附属病院であり、「献眼」の施術完了までは非常にスムーズであったと思っています。



初孫と…

今の私は、妻を失った悲しみが大きく、「献眼」について、冷静に思考することができていない状況ですが、アイバンク関係者の皆様等から、ご丁寧な対応をいただくとともに、おふたりの方に角膜が移植され、手術が成功したとのお知らせをいただく中で、妻が人生の最期に、この世に生きた証として、崇高な行為を実行したのだろうという想いだけは、確信しているところです。

# いつまでも輝き続けて

川岸 敏子

私たち夫婦は歳を重ね、いつの間にか80代後半の歳になった私たち夫婦は、家族をはじめ多くの方々に支えられ、今があることを思いながら、近い将来に訪れるはずのそれぞれの人生の終焉を話し合うことで『終活』を始めていました。そんな折、ライオンズクラブメンバーとして、献眼活動に取り組んでいる息子から、アイバンク登録の話聞き、年齢を気にしたものの、高齢でも可能であるとのことで、誰かのお役に立つことならば、と夫婦で賛同しアイバンク登録をしたのが今年の秋でした。

今年の8月2日は日曜でしたが、朝からの日差しは猛暑日を予感させていました。

散歩に行くと言って、中央通り（富山市）のアーケードに向かった夫は、その数分後に路上で倒れ、救急搬送された病院で86歳の生涯を閉じました。急性心不全…。

あまりに呆気ない夫との別れで、実感もない悲しみの中、休日にもかかわらず駆けつけていただいた眼科のお医者さんによる短時間の角膜摘出处置が行われ、「きれいな角膜でしたヨ」と告げられました。早速に亡き夫の枕元へ行き、前となんら変わらない顔をそっと撫でながら、しばらく安堵の涙を流しました。

やり場のない悲しみの中にも、故人の人生最後の小さな奉仕の想いが「献眼」という行為となり、目の不自由な方のために、お役に立てること、そして何より、亡き夫の想いと角膜が生き続けるよう、祈るばかりでした。

故人は陶芸や写真撮影を趣味として、美しい風景もたくさん残しましたが、後日、おふたりの方が移植を受けられたことを知り、その方々を通じて亡き夫の目が今もどこかで輝



きながら、新たな景色を眺めている情景を思いながら、おふたりの新たな人生への再出発の一助になれたことが幸いであり、今の私の心の癒しとさえ感じるようになりました。

最後に、おふたりの瞳がいつまでも末永く、輝き続けられることをお祈りいたします。

合掌

# 父の献眼について思う

西能 徹

父は、ライオンズクラブで献眼活動を推進し、25年前からアイバンクに登録していました。亡くなったなら献眼をしたいとの故人の遺志を尊重して献眼をしました。

昨日23日に、公益財団法人富山県アイバンク様のお蔭で「厚生労働大臣感謝状」伝達式に出席をしました。本当にありがとうございました。アイバンク様から、「角膜手術をした2名の方に新たな光が戻った」との連絡があった時は、本当にお役に立てて良かった！父も喜んでいると思いました。



現在、角膜の提供を待っている方は、富山県内10名・全国3,000名程度です。26年度10月時点では献眼者数11名、角膜移植者数17名。富山県内で今までに340名の方に角膜移植が行われているそうです。今回の伝達式で、90歳以上の方の提供が数名おられ、年齢は全く関係ないと実感しました。

アイバンク (Eye bank) とは、角膜移植によってしか視力を回復できない患者のために、死後、眼球を提供することに本人または遺族の同意を得て、移植を待つ患者に斡旋する公的機関のこと。日本でのアイバンクは、厚生労働大臣の許可を受けて運営される「眼球あっせん業」のことで、眼球銀行ともいいます。

角膜とは、目の最も前のいわゆる茶目の前にある、透明な膜です。厚さは中央部で約0.5mm、周辺部の白目に近いところで0.7mm程度、直径は11～12mmです。目に入った光の焦点を合わせるための屈折は水晶体 (レンズ) で行っていると思われがちですが、目の屈折力の多くはこの角膜の部分で行われています。したがって、ごくわずかな変形や混濁が視力には非常に大きく影響してしまいます。

アイバンクに献眼するためには、万が一の際に、最寄りのアイバンクに連絡をすれば、アイバンクがすべて対応します。提供するための処置には約1時間程かかります。ご自宅でも、病院でも提供することができます。年齢制限もありません。近眼や老眼でも角膜は移植に用いることができますし、網膜などの疾患で眼のご不自由な方でも角膜は充分、移植に用いることができ、視力障害の方が光を取り戻すことができます。

[第一交易株式会社ホームページ 社長の今月の一言 (2014年10月24日 第154号「アイバンク」) より引用]

# 母は生きている

栗栖 勝栄

去年4月に母の十三回忌を済ませました。

平成14年4月12日、病院で母の最期を看取ることとなった悲しい夜、身内に連絡すると同時に私が依頼したのは、セレモニーセンターより先にアイバンクでした。

若い時から何事にも前向きで、チャレンジ精神旺盛で、地域活動の中でも世の為人の為、自分より先に人のことを考える母でした。いつも私の背中を押してくれた母、そんな母の元で育った私は当然のように若い頃から「腎バンク」「アイバンク」に登録しています。母は「アイバンク」へ登録してはいませんでしたが、最期を看取った私の使命であるとの思いで連絡、依頼いたしました。悲しみの中で決断した私を、母はきっと褒めてくれたであろうと確信しています。葬儀も終わり、何日か後にアイバンクさんからお手紙を頂きました。

「お母様の角膜は大変健康的で、お待ちになっていた若い方お二人に移植されました。」

母はどこのだなたかも知れないお二人の方に「光と明り」をプレゼント出来たのですね。母の姿は私の前から無くなりましたが、お二人もの眼を通して確実に生きている。そして私をいつも見守ってくれている。そう思うと涙が止まりませんでした。

毎朝仏壇に手を合わせながら母の写真に「今日も元気に頑張るから私の事を見ていてね」と語りかけて仕事に出かける私は、アイバンクさんに感謝しています。



# 献眼提供者遺族としての感謝

野村 謹吉

亡き母の四十九日の法要も無事済ませ日ごとに母のことが遠くなりがちな今日、富山県アイバンクから一通の封書が届いた。開封してみると母の角膜提供を受けた青年から感謝の手紙が同封されていた。その手紙はたどたどしいながらも便箋三枚にぎっしりと目を悪くしてから術後の今日までの気持ちを書いてあった。

その手紙には、中学生の頃からだんだん目が悪くなり、高校生になると生活にも不自由を感じ勉強もつらくなり、友達も遠ざかり、そしてついに高校も中退してしまい失望した毎日であった。ある日、テレビで小学二年生が角膜移植で目が見えるようになり、いろいろな事が出来るようになったという話を聞いた。そこで自分もそのようになりたいと病院に相談したら、いまの日本では角膜の提供者が少なく、又それを待っている患者さんがたくさんおり手術はいつになるかわからないと聞かされた。

ところがこのたび、自分が本当に運よく角膜移植手術を受けることが出来、術後の経過も良く視力も0.5までに回復することが出来た。「現在は心も前向きの気持ちになってきており、車の免許も取りたい、社会に出て働きたいという意欲が出てきて希望に胸がふくらんできている」、そしてまた「角膜を下さった方のやさしさ思いやりに感謝でいっぱいです」、さらに「治していただいた目を大事にして二人して生きさせてもらっているのだと心して頑張り、今度は僕が人の為に役立っていきたいと思っています」そして末尾に、「この経験をとおして一人では生きていけなく、お互いに助け合い人を思いやる心が大事だなと思いました。いただいた方への恩に報いる為にも幸せな境遇を確立して行きます」と記されていた。

私はこの手紙を読んでいるうちに涙があふれ、母があの世界に行ってもこうした徳をつまれていることにあらためて驚き、そして顔も名前も知らない一青年が、このことに感謝しながら生きているという事実に深い感動を覚えられずにはいられない。



# 「人の役に立ちたい」

---

柳原美佐子

私の兄は、体調不良で救急搬送され、末期の肺癌と診断されました。入院先で兄からドナーカードを渡され、「人の役に立ちたいので、すべての臓器を提供したい」と言われ、先生に話した所、「癌のため内臓などの臓器は提供できないが、眼は提供できる」と言われました。兄が息を引き取ると、病院からアイバンクに連絡をしていただき、病院に居る間にその処置ができました。

兄の眼が移植された事により、私たちと同じ日常の生活が送れるようになった人が居ると思うと、兄が最後まで「人の役に立ちたい」と言っていた事が叶い、本当に良かったと思っています。



# 開眼者の手記

目に障がいがあるために、一生を暗やみの中で、過ごさなければならない方々が、全国で31.5万人おられます。そのうち数万人の方々が、角膜移植によって再び視力を回復することができます。

これまでに角膜移植を希望され、待機されていた方々に移植が行われて開眼者となり、その喜びの声が富山県アイバンクに寄せられています。

今回9人の方々の喜びの文章を載せさせていただきましたので、是非お読み下さい。

## 角膜を献眼して下さったご家族様へ

一昨年11月末に、角膜を提供していただき、心から感謝しております。

私は、19歳の時に、難病を患い、その治療薬の副作用から「ステロイド性緑内障」となり、両眼の手術を受けながら14年余り経ちました。そして一昨年夏に、一夜で左眼の視力を失い、「視力障がい」となりましたが、一昨年秋に、左眼が激痛に襲われ、角膜上皮が、はがれ落ち、角膜移植の話を主治医からされました。

わずか10日後に、角膜移植手術を受けさせていただき、術後の経過も良く、激痛から解放され、日常を送る事が出来るようになりました。ご本人様、ご家族様の尊いご意志のお蔭で、左眼と心に、「光と、生きる希望」をいただき、感謝と感激で一杯です。

ご本人様と、ご家族様の想いを、いつも胸に、人生どんなときでも、前を向いて、決して諦めず取りくみ、人の心に、希望を灯せるように…歩んでいく事を、心に誓いたいと思います。

最後になりましたが、ご提供いただいた方のご冥福を心からお祈り申し上げます。

ご家族の皆様も、どうか、体調を崩されませんようにお過ごしください…。

(女性)

## 相性が良く喜んでいきます

平成25年4月25日(木)11時貴方の角膜を、私の左眼へ移植しました。

手術翌日26日の点眼時に自分の手を見てビックリしました。野球のグローブのように見えた5本の指がハッキリと見えて感動しました。私の左眼は、高校生の時から見えなくなり、右眼だけで40年以上不便な生活をしてきました。

この感動は全てご献眼された貴方のおかげです。両眼がさらに見えるようになったら3D映画、自然の風景、運動etc自由な幅が広がり期待でワクワクしております。貴方から頂いた角膜と私の眼の相性が非常に良いようで(執刀医から聞きました)手術後2日目に退院出来ました。

この大切な眼は、一生大事に使います。

ご献眼された貴方、アイバンクの方々、病院の方々に感謝しながら筆を置きたいと思います。

又、アイバンクの重要性を周囲の人に流布させたいと思います。ありがとうございました。

(男性)

## ご家族様へ

この度は、ご家族の大事な角膜を提供して頂き誠にありがとうございます。大変感謝しています。

ご家族様の決断がなければ、こうして無事に角膜移植の手術さえもうけられませんでした。本当に感謝してもしきれません。

今は術後の経過もよく、これから頂いた角膜と共に生きていこうと思っています。

角膜をご家族様と思って香川の景色をたくさん見せてあげようと思います。

この度は誠にありがとうございました。

短いですが、お礼の手紙にかえさせていただきます。

字がきたなくてすみません。

(男性)

## 富山県アイバンク様 ドナー様

この度、貴重なる献眼アリガトウございます。

去る20日に、移植手術を行い、順調に回復に向かっております。

両眼とも、先天性緑内障で、小5の時に左眼を除去し、3年前に右眼が悪化し、視力が殆ど0に近い状態になりました。

貴重な献眼により、視力改善につながるよう期待しております。

心より献眼に感謝しており、ありがとうございました。

(男性・代筆 父)

## なんという倖せ者でしょう

この度はかけがえの無い身内の方の大切な角膜を私ごとき他人に下さることになって、まことに有難く厚く御礼申し上げます。

おかげさまにて頂いてから数日後の今日すぐさま今までは真っ黒だった世の中をパッと明るくしてくれました。特に白い物はよく見えてまるで私を別世界につれて来てくれた感じでした。私は思わず大きな声を出してしまいました。まだまだ日は浅いのですが今後日毎に身体になじんでくれるのでしょう。角膜を下さった方と私は一体となれるのです。

なんという倖せ者でしょう。このところつい日毎に暗い気持ちになっていたのがこれからはこの角膜様のおかげで明るさをとり戻しもういっぺん人生を取り戻してみよう！と思わず心の中で叫びました。

御家族の方、本当に有難うございました。

まだ少し残された人生、二度と無いこの人生を皆様大切な方から頂いた角膜のおかげでやり直す気持ちにあふれています。心から感謝致します。

ありがとうございます。

(女性)

## 感謝、感謝!!

この度は角膜をどうもありがとうございました。私はもう何年も手術が受けられるのを待っていました。全盲の者ですが、先生から移植しかないと言われ、それも何年かかるかわからないと言われ、とても苦しい気持ちで毎日を過ごしてきました。今回こうして手術を受けることができ、角膜を分けて下さった方には、感謝の気持ちしかありません。目薬のことなど大変だと聞いてますが、ご恩に応えるためにもがんばりたいと思っています。どうもありがとうございました。感謝、感謝です。心からお礼を申し上げます。

(男性)

## 庭のアジサイが見えた

私 大変お世話になりながら失礼致しておりました。やっと筆がもてる様になりました。タテ書きにて申し訳ございません。

此の度、私のために提供して下さった方、そしてお世話して下さった、センターの皆様心から御礼と感謝の気持ちをつづらせていただきます。

私は、58歳のとき急性緑内障になり、一夜にして左眼の光を失い片方だけで生きてきました。不自由にも馴れて何とか生きてきました。

其の間、御立派な先生に出会いまして、此の度、夢の様な現実を手にする事が出来ました。こんな嬉しい日が来るなんて…。

私は、あきらめていた自分に、こんな嬉しい日がくるなんて想像すらしていませんでした。ほんとうに感謝の気持ちしかございません。

ありがとうございました。お世話になった方々の御恩にむくいるためにも一日でも永く生きていき

ます。

術後二週間して庭のアジサイのつぼみが見えた時の感謝は絶対に忘れません。今現在、あの時のアジサイが「良かったネ」とささやいてきている様に感じます。ほんとうにありがとうございました。あの日から三ヶ月過ぎました。自分の書いた字もまだはっきりしませんが、やっと字が書ける喜びを心こめて感謝しています。

ほんとうにありがとうございました。

失礼いたしました。

(女性)

## 初めて空の青さを知った

私は初めて空の青さを知りました。

ひとえにドナーの方のおかげと感謝しております。本当にありがとうございました御座居ます。

\* \* \* \* \*

母に代り長女が代筆させていただきます。

母は昔から他の人の目の色とは違っていました。

子供なりに不思議に思っていました、大人になり、それが角膜の病気と知りました。

視力は生活できる程度にはあったのですが、年を取り白内障になり、角膜移植と白内障の手術をしないといけなくなりました。

ドナー様とその御家族の皆様の優しい気持ちのおかげで、母は手術を受ける事ができました。

本当に、本当にありがとうございました。

手術を終え、始めて見たテレビに写った青空に「空ってこんなに青いの！」と驚いたり、自宅に戻りいつも飲んでいたお茶の緑色に「こんなにきれいな?!」と感動しております。

ドナー様の角膜は、母に希望の光を与えて下さりました。感謝の気持ちでいっぱいです。

視力は徐々に回復していく様ですが、これからたくさん美しい自然を見る事ができると思います。

まだまだ寒い日が続きますが、どうぞ風邪などひかぬように、御自愛下さい。

ありがとうございました。

(女性)

## ご献眼していただきましたご遺族様へ

拝啓

初めてお手紙を差し上げます。このたびは、ご遺族の方から、富山県アイバンクにご献眼していただきまして誠にありがとうございました。そしてアイバンク様のご高配を頂きまして私の右眼（左眼はすでに盲目です。）に角膜の移植手術をしていただきました。手術は、大成功でした。嬉しさでいっぱいです。これもひとえにご遺族様のおかげでございます。本当に本当にありがとうございました。私もご遺族様を見習いまして、臓器提供の申請をしたいと思っております。ご遺族様、本当にありがとうございました。時節柄、どうかご自愛くださいませ。

敬具

(男性)

# 富山県アイバンクの歩み

---

# 1991(平成3年)～2012(平成24年)

## 〔1991年／平成3年〕

- 12月 富山県知事の設立許可
- 12月 理事長に家城潔就任、常務理事に高岸和男・大黒幸雄就任

## 〔1992年／平成4年〕

- 4月 厚生省(現 厚生労働省)へ眼球あっせん業について申請
- 6月 厚生省より眼球あっせん業許可

## 〔1993年／平成5年〕

- 9月 北日本放送・FMとやま等で啓発普及CM実施
- 10月 富山テレビ「スーパータイム530」にてアイバンクの現況を放映
- 11月 北日本新聞に啓蒙活動広告を掲載
- 12月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式

## 〔1994年／平成6年〕

- 2月 理事長に井村東司三就任
- 6月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 10月 KNBラジオにて献眼者の遺族、移植を受けた方、理事長の三者インタビューを放送

## 〔1995年／平成7年〕

- 2月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 3月 広報誌富山県アイバンクだより創刊号発行
- 7月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 8月 広報誌富山県アイバンクだより第2号発行
- 10月 KNBラジオ「情報ナビゲーター」にて献眼登録普及啓発
- 10月 第1回献眼運動富山県民大会開催

## 〔1996年／平成8年〕

- 2月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 3月 常務理事に高田眞が就任
- 4月 広報誌富山県アイバンクだより第3号発行
- 7月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 11月 広報誌富山県アイバンクだより第4号発行

## 〔1997年／平成9年〕

- 2月 眼球の強角膜片保存方法導入の報告

- 2月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 3月 ラジオたかおかの番組にて理事長・事務局が啓発活動
- 4月 アイバンク支援藤巻篤子チャリティーコンサート(後援)
- 7月 『三百字の遺言』刊行
- 7月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 8月 チューリップテレビ・北日本放送にて啓発活動
- 10月 臓器の移植に関する法律施行、角膜及び腎臓に関する法律廃止。本人が書面にて提供意思表示をしていれば脳死提供が可能に厚生省より角膜移植におけるドナーの適応基準についての通知があり、ドナーからの採血を行うこととなる
- 10月 富山テレビにて理事長が啓発活動
- 11月 KNBラジオ「ビタミンワイド」にて啓発活動
- 11月 強角膜片作成とドナーからの採血講習会実施
- 11月 富山法人会チャリティーコンサート

## 〔1998年／平成10年〕

- 4月 日本財団補助金授与式(角膜移植用強角膜片撮影装置機器等の整備)
- 4月 富山県善意銀行合同法要に出席
- 6月 広報誌富山県アイバンクだより第5号発行
- 7月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 11月 KNBラジオ「ビタミンワイド」にて啓発活動

## 〔1999年／平成11年〕

- 2月 国内初の脳死下臓器提供・角膜提供
- 3月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 3月 北日本放送「もっともっと富山アイバンクは今」番組放映
- 4月 富山県善意銀行献眼献体合同法要に出席
- 6月 「Eye Bank Journal」に大黒常務理事が寄稿
- 7月 登録カードを旧免許証サイズからカード型に変更することが決定
- 8月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 8月 広報誌富山県アイバンクだより第6号発行

- 10月 アイバンクチャリティー長岡すみ子民謡ショー(富山LC主催)
- 10月 日本眼科紀要第50巻第10号にて論文掲載
- 11月 第2回献眼運動富山県民大会開催
- 12月 「Eye Bank Journal」に寄稿
- 12月 同号地域版に富山県アイバンクの紹介が掲載。井村理事長・大黒常務理事が寄稿

## 〔2000年／平成12年〕

- 1月 「眼球のあっせんに関する技術指針について」(厚生省保健医療局通知)により、技術的行為について一定の基準が設けられる
- 2月 第24回角膜カンファランスにおいて学術展示発表
- 4月 フェルヴェール開店1周年記念「ペギー葉山リサイタル」後援
- 5月 ライオンズクラブのLCIF交付金による医療機器贈呈式、富山大学に機器設置
- 12月 アイバンクチャリティー加賀山昭・歌千代民謡の夕べ(富山南LC主催)
- 12月 副理事長に高田眞が就任、常務理事に岡本武勇が就任
- 12月 第2回アイバンクワークショップセミナーにて講演
- 12月 広報誌富山県アイバンクだより第7号発行

## 〔2001年／平成13年〕

- 2月 公的病院を対象にアイバンクに関するアンケート調査を実施
- 4月 献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式
- 5月 富山眼科集談会において発表
- 8月 広報誌富山県アイバンクだより第8号発行

## 〔2002年／平成14年〕

- 1月 強膜あっせん業の認可を受ける
- 2月 第26回角膜カンファランスにおいて学術展示発表
- 3月 ラジオたかおかにて啓発活動
- 4月 設立10周年記念大会開催
- 12月 「Eye Bank Journal」に高田副理事長の紹介が掲載
- 12月 理事長に高田眞就任、副理事長

に本村哲明と大黒幸雄就任、常務理事に野村謹吉就任

#### 〔2003年／平成15年〕

- 2月 アイバンク協会認定スタッフ第1回認定試験に入江コーディネーターが合格
- 3月 富山県アイバンク情報発行開始
- 5月 献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式
- 5月 広報誌富山県アイバンクだより第9号発行

#### 〔2004年／平成16年〕

- 2月 アイバンクサポーター講習会開催
- 2月 県より業務及び財産の状況に関する検査の実施
- 4月 献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式
- 8月 広報誌富山県アイバンクだより第10号発行
- 10月 アイバンクチャリティーなぎさ会民謡の祭典（富山南LC主催）
- 12月 登録者10,000人に対し登録継続意思確認調査を実施

#### 〔2005年／平成17年〕

- 2月 アイバンクチーフサポーター講習会出席
- 3月 「Eye Bank Journal」に大黒副理事長が寄稿
- 4月 個人情報保護に関する法律の施行（平成15年）により、登録パンフレットに目隠しシールを付属
- 5月 献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式
- 8月 広報誌富山県アイバンクだより第11号発行
- 9月 「Eye Bank Journal 創立40周年記念号」に大黒副理事長・入江コーディネーターが寄稿
- 9月 第5回アイバンクチーフサポーター講習会参加
- 10月 第9回JATCO研究会にて発表

#### 〔2006年／平成18年〕

- 3月 第6回アイバンクチーフサポーター講習会出席
- 4月 院内コーディネーター委嘱状交付式
- 5月 献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式
- 6月 第19回日本脳死・脳蘇生学会にて一般口演発表
- 9月 広報誌富山県アイバンクだより

#### 第12号発行

- 11月 JATCO研究会にて発表
- 12月 第7回アイバンクチーフサポーター講習会に野村常務理事が出席

#### 〔2007年／平成19年〕

- 4月 院内コーディネーター委嘱状交付式
- 4月 赤い羽根共同募金会助成金交付式
- 5月 FMとやまラジオにて啓発活動（6月11日から15日まで放送）
- 6月 広報誌富山県アイバンクだより第13号発行
- 6月 KNBラジオにて啓発活動
- 6月 ラジオたかおかにて啓発活動
- 6月 設立15周年記念大会開催
- 10月 高田眞理理事長が北日本新聞文化功労賞受賞
- 10月 いきいきとやま健康と長寿の祭典にて啓発活動
- 11月 第57回富山眼科集談会にて発表

#### 〔2008年／平成20年〕

- 2月 第32回角膜カンファランスにおいて学術展示発表、入江コーディネーターが眞鍋賞を受賞
- 3月 アイバンクチャリティー加賀山昭の会（富山南LC主催）
- 4月 院内コーディネーター委嘱状交付式
- 6月 献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式
- 8月 第7回日本組織移植学会学術集会において一般演題発表
- 9月 広報誌富山県アイバンクだより第14号発行
- 12月 LCIF一般援助金交付医療機器（DSAEK）贈呈式、富山大学眼科へ機器設置

#### 〔2009年／平成21年〕

- 2月 第33回角膜カンファランスにおいて学術展示発表
- 5月 献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式
- 8月 公益財団法人への移行申請書の提出
- 8月 県より業務及び財産の状況に関する検査の実施
- 10月 県より公益財団法人への移行の認定を受ける
- 11月 公益財団法人への移行登記
- 11月 広報誌富山県アイバンクだより第15号発行

#### 〔2010年／平成22年〕

- 1月 臓器の移植に関する法律改正（一部施行）により、親族優先提供が可能となる
- 3月 副理事長に宮岸武就任、常務理事に森弘就任
- 4月 院内コーディネーター委嘱状交付式
- 6月 平成22年度寄付金付き年賀はがき助成金を、献眼登録推進及び登録普及啓発用チラシ等作成のためのカラー複合機導入事業として受領
- 7月 臓器の移植に関する法律改正により、本人が臓器を提供する意思がないことを表明していなければ、遺族が臓器提供に書面にて承諾した場合、提供が可能に。これにより、15歳未満の方からの脳死下での臓器提供も可能に
- 10月 献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式
- 12月 広報誌富山県アイバンクだより第16号発行

#### 〔2011年／平成23年〕

- 1月 アイバンク啓発用立て看板「アーチ君」作成
- 7月 理事長に大黒幸雄就任、副理事長に伊勢豊彦就任
- 8月 平成23年度献眼登録フォローアップ事業を実施
- 10月 岡本武勇理事が臓器移植対策推進功労者厚生労働大臣感謝状を拝受
- 10月 献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式
- 11月 広報誌富山県アイバンクだより第17号発行

#### 〔2012年／平成24年〕

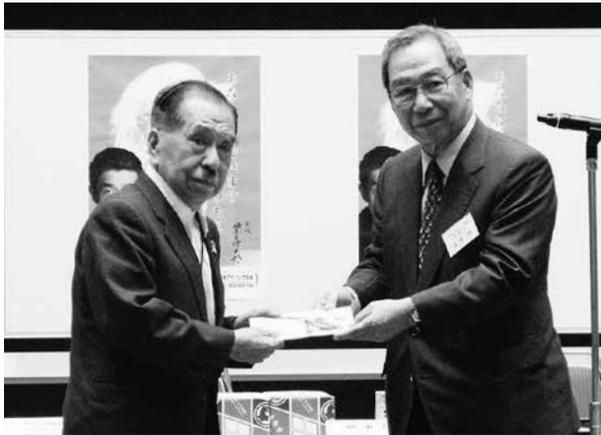
- 2月 角膜カンファランス2012において、ポスター展示発表
- 4月 平成24年度寄付金付き年賀はがき助成金決定通知書交付式
- 5月 赤い羽根共同募金会助成金決定書交付式
- 6月 富山県において日本初6歳未満の脳死下臓器提供
- 7月 井村元理事長、今泉賞受賞
- 8月 富山福祉短大看護学科においてエンゼルメイク講義
- 8月 広報誌富山県アイバンクだより第18号発行

# 2012(平成24年)～2017(平成29年)

## 献眼の意思を尊重する体制整備を継続

富山県アイバンクでは、設立以来献眼登録活動をはじめ、献眼の意思を生かせる体制整備として、フォローアップ事業の実施や院内コーディネーター

との連携を図り、提供の意思を尊重できる体制整備に力を入れてきました。その結果、ここ数年献眼数が増加しています。



平成24年7月／井村元理事長、今泉賞受賞

今泉賞：日本で初めて角膜移植を行った今泉亀徹の多年にわたる角膜移植医療、およびアイバンク活動への貢献を記念し、平成20年に制定。わが国における角膜移植、およびその関連分野の医療の研究または実践、アイバンク活動の推進に著しい貢献をした個人または組織へ送られる賞。



平成26年11月／いきいき富山健康と長寿の祭典



平成27年7月／全国アイバンク連絡協議会

### 〔2012年／平成24年〕

- 9月 阪神化成工業株式会社設立40周年記念イベント及び富山県アイバンク設立20周年記念プレイベント・ミュージカル「本能寺が燃える」にて啓発活動・募金活動実施
- 9月 設立20周年記念式典ならびに記念講演
- 10月 献眼者ご遺族へ厚生労働大臣感謝状伝達式を実施

### 〔2013年／平成25年〕

- 2月 富山市立呉羽中学校学習活動「夢に向かってステップ・ワン!『13歳の学び』」にて講義実施
- 9月 第8回ふくおか健康づくりとボランティアの集いにて登録パンフレットの配布
- 9月 ライオンズクラブ国際協会334-D地区2リジョン3ゾーンガバナー公式訪問にて講演
- 9月 アイバンクだより第19号発行
- 10月 献眼者ご遺族へ厚生労働大臣感謝状伝達式を実施

### 〔2014年／平成26年〕

- 2月 角膜カンファランス2014に参加し、コメディカルプログラム第一部「アイバンクごとのドナー比較(年齢、性別、内皮細胞数等)」にて発表
- 2月 富山市立呉羽中学校学習活動「夢に向かってステップ・ワン!『13歳の学び』」にて講義実施
- 2月 富山市二口町長寿会にて講演
- 4月 セミナー「アイバンクの発展におけるベストプラクティス」に参加
- 6月 富山眼科集談会にてミニ発表



平成28年3月／富山医療福祉専門学校



平成28年5月／ライオンズクラブ年次大会



平成28年11月／第一イン新湊「献眼登録の集い」



平成29年2月／呉羽中学校にて講演



平成29年3月／フォローアップ事業



平成29年6月／富山県宅建協会女性部例会

- 8月 金沢医科大学氷見市民病院第3回夏休み親子ふれあい医療フェスティバルにて登録活動実施
- 10月 献眼者ご遺族へ厚生労働大臣感謝状伝達式を実施
- 11月 アイバンクだより第20号発行

**〔2015年／平成27年〕**

- 2月 啓発用冊子「三百字の遺言-献眼へのメッセージII-」発行
- 8月 第14回日本組織移植眼科医学術集会にて発表
- 10月 献眼者ご遺族へ厚生労働大臣感謝状伝達式を実施

- 11月 「日本アイバンク協会認定サポーター講習会」並びに「献眼登録確認フォローアップ事業研修会」を開催
- 12月 アイバンクだより第21号発行

**〔2016年／平成28年〕**

- 2月 富山市立呉羽中学校学習活動「夢に向かってステップ・ワン!『13歳の学び』」にて講義実施
- 2月 広報誌「アイバンクだより第22号」を発行
- 2月 角膜カンファランス2016参加

- 3月 富山医療福祉専門学校においてアイバンク講義実施
- 4月 富山県臓器移植院内コーディネーター委嘱状交付式に出席
- 9月 日本アイバンク協会の献眼登録確認フォローアップ委託事業実施
- 10月 献眼者ご遺族へ厚生労働大臣感謝状伝達式を実施
- 11月 第一イン新湊「献眼登録の集い」会場にて講演

**〔2017年／平成29年〕**

- 6月 富山県宅建協会女性部例会にて講演会開催

# 献眼へのメッセージ

## 人生最後の奉仕

太田 茂

献眼啓蒙活動に長年携わって来た私には、右眼球癆、左ぶどう膜炎、白内障、緑内障の診断で出生時より視力右眼ゼロ、左眼0.04の障害を持つ娘がいる。娘は盲学校を修了して十八歳から福井県の重度視覚障害者施設「光道園」に今日までお世話になっている。視覚障害者については格別の理解者と自負しているので献眼運動にたいしても協力を惜しむことなく尽力してきた一人と自負しているが、残念なことに十三年前に母親の死去に際して献眼の義務を果たしていないのである。肉親の死去に際しては悲しみに打たれ忘却したのは当然のことと慰めてくれる人もあるが、自分としては決して許されることではないと痛感しているのです。

八十歳半ばを過ぎた私は、近い将来には必ずこの悲願とも言える献眼を実現してもらいたいのです。娘の視力は角膜移植でも視力の回復には至らないのですが、死後の角膜移植により明るい人生を取り戻すことができる人たちに使っていただけるならば、最高の幸せと思っています。

妻や子供たちには、この遺言を伝え、ためらわずに、忘れずに献眼してくれるよう、重ねて遺言しておくのであります。

## 後に生きる人が

片山 孝志

私は道路案内看板の字がよく見えなくて、免許書き換えに際し、更新ができないのではと思い、眼科に相談したところ、白内障と言われ、両眼の手術をすることを決断しました。初めての事でもあり、失明するのではと、とても不安でしたが、先生にお任せして手術をし、よく見えるようになり、嬉しくてたまりませんでした。このくらいでも嬉しいのですから、見えない人が見えるようになる感動は想像以上の事だと思います。

私は色々なボランティアをさせていただく機会がありますが、最後に人のお役に立てるのは献眼しか無いのではと思っております。色々な病を持ってお

る私です。献血、臓器提供等はできませんが、献眼だけはできる体です。今も親戚の葬儀を終えたばかりですが、死するとは、もう抜け殻です。仏様です。体そのものは、火葬でなくなってしまいます。

自分の角膜で、後に生きる人が、素晴らしい人生を送ることができるならば、これ以上のボランティアはないのではと思う今日この頃です。

## 母からの最高の贈り物

木村 正明

常々、健康で丈夫に産んでくれた母親に大変感謝しています。妊娠中から健康な子を産むために考え得るありとあらゆることをしていたようです。そのお蔭で、六十二歳になる今日まで殆どお医者さんの厄介になったことがありません。冗談交じりに、もう少し頭がよく産んでくれたらもっと良かったのにと憎まれ口を叩いたりしています。

体が不自由なことは大変なこと。普段何気なく生活していますが、自身が怪我などをしたら、健常者である有難味を痛感します。私が死んだら、使える臓器は全て提供して皆さんの役に立ててもらいたいと思っています。特に「百聞不如一見」という諺があるように、目からの情報はほかの器官からのその数倍から数百倍あると思います。然も瞬時にして情報が飛び込んで来ます。

私は、金銭的財産を遺すことは出来ませんが、母から貰った丈夫な体を活かしてもらえれば幸いです。

## この眼で未来を

清水 英子

「本が読みやすくなるから」の言葉にひかれて、白内障の手術をしたのは七年前。徐々に視力がおちていっても、その状態に慣れてしまっていたのだろう。手術後、眼帯をはずされて驚いた。世の中の色彩がこんなにも鮮やかで美しいものだったのか。目の前の緑の生命がきらめいている。

私の子供時代は、戦争の歳月の中であった。

B29による大空襲の夜、富山市内の炎上する中で幸運にも生命を拾った。人間の恐ろしさ、残酷な地獄を見た。

平和な時代になって、雄大な大自然、人類の産んだ歴史や文化の素晴らしさに触れ、その美を堪能することができた。なによりも家族や友人たちの笑顔を見つめ、思いやりの心につつまれ、年齢をかさねることができて今日がある。

大分古びた両眼ではあるが、私の人生を豊かにしてくれた大切なものである。もしお役にたつなら、夢をもって前向きに生きようとする若者のために使っていただければ、本当に嬉しくありがたい。そして私が見ることのできない未来を楽しみに。

## 尊い勲章

見津美紀子

二年前、八十九歳の実母を引き取ることになりました。献眼に一番貢献できる年齢です。

「高齢だから何かあったら献眼に協力してね！」

「わかったよ。」

未来にすぎませんが、心から感謝いたしました。

毎日が思わしくない介護生活の中で、意外な言葉が出ました。

「目やの取らんといて。痛いし、いややわ。」

返す言葉がありません。

「わかったよ。」

しばらくは、問題に触れずに介護を続けました。

「やっぱり、目を取ってもいいよ。」

母からの言葉です。

さて、私からの遺言に入ります。

ライオンズクラブのバッチを胸に付けた日から、私は自分のできるボランティアを探し始めました。皆が同じ気持ちで協力できたなら、社会から犯罪や争いが無くなるのです。

その喜びは、叙勲や名誉には程遠いけど、自分が自分に贈る尊い勲章なのです。

## 一人でも多くの方に光を

土田紀代子

昭和56年3月27日付、富山医薬大窪田靖夫先生直筆の手紙と献眼登録証が私の手許にあります。私は当時四十歳でした。

生後十か月でけがのため右目を失明しましたが、左目は七十四歳の今も1.0の視力があり、何の障害もありません。その事情を書き、左目だけでも献眼可能ですか？と出した私の問いに、先生はOKの返事をくださいました。

今私は点訳ボランティアをして、点字文庫から送られてくる本の点訳をしたり、ガイドヘルプ等、多くの出会いに感謝しながら視覚障害者のお手伝いをさせていただいています。アイバンクの活動がもっと広がりますようにとせつに祈ります。

## 移植で再び光を…

中田 眞法

昨日まで明るく見えていた目、世の中が映っていた目が突然光を失ったら…。

明るい場所から暗い場所に入っただけでも戸惑い、不安で、手探りの状態になって不安で一杯になってしまいます。

世の中に、角膜移植を望んでいる人、提供してもいいと思い、ドナーとして登録しておられる方、そして、それぞれを橋渡しの、アイバンク(公益法人)があることを私は無知にも七年前にようやく知りました。それまで目のことを心配する環境になかったのか、深く考えたことがありませんでした。

ライオンズクラブに入会して、アイバンクの奉仕活動に出会い、少々おこがましい事ですが、もっともっと世の中全体にお願いし、広めてゆくことができることだとおもうようになりました。

偉大な先人の方々の努力も、私自身ようやく真剣に考えさせられるようになったのは、自分も白内障と云う病気になり、眼に自信が持てなくなったからでした。

光のない世界、見えない世界、本当に辛いことです。移植で再び光を…。

単純なこと、当たり前なこと、人間の豊かな人生に欠かせない条件と信じ、アイバンクが求めるドナー登録への啓蒙を、進んで働きかけたい一人になりました。

## 視力回復のバトンをつなぐ

館 良一

私の片方の目の角膜には、小さな傷があります。小学校に上がる前、母親の実家で従弟たちと竹とんぼを作っているとき、小刀で刺した小さな傷です。正しい使い方も知らないままに起こった突然の事故に、母親は狼狽しながらも自転車の後ろに私を乗せ、懸命に街の眼科医へ連れて行ってくださいました。それから数か月、毎日のように医者通いをした記憶を思い起こします。幸い、傷は瞳をわずかにそれていたため、完治後の視力に影響がありませんでした。懸命に治療を頂いたお医者さんと母親には、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

たくさんの方々力を借りて頂いた視力、私の命が途絶えた時には今度は私が視力回復へのリレーのバトンを渡したいと思っています。万一、傷ついた角膜が使えないとしても、もう一方の目の角膜は健康です。視力回復を待つ、一人でも多くの方のお役にたてたらと思っています。

臓器移植をし得る身体を持ちつつ、今は青葉のもとに居て誰のものでもない自分の生を生きている、しかし死後の自らの臓器が他の人に移されて、各々の臓器の機能が維持してゆくかもしれない、そのことへの畏れが詠まれているのです。

夫から献眼の意思を問われた時、私はこの短歌を思いました。眼を取り出して、他人へ移植するというを受け入れられませんでした。後日双眼の焦点が合わなくなり失明の恐怖を味わいました。幸い大事に至りませんでした。この時初めて献眼の意義に気づかされたのです。

〈あの世から見ている壁の鳩時計わたしが何処にも居ない明るさ 高松光代〉

人としてあるべき死を遂げて、あの世からこの世を見ていたいという思いは考えてみれば臓器を譲ったとしても叶えられることです。などと思いつつ献眼を登録するに至りました。誰かに私の目が役立つなら生きて来た甲斐もありましょう。

〈ふたたびはこの世に生(あ)れじ生き尽くし亡きのち光の粒子となりて 畠山満喜子〉

## 先導者のあなたへ

田邊ゆかり

人生の扉を開けたその瞬間からあなたのお蔭で「光の道」、「影の道」さまざまな道の先導者としてあなたと私は二人三脚で人生という道を歩んできました。

そして人生の扉を閉めた後、あなたはどこかの誰かのために、全く違う環境で、どんなものを見て、どう感じ取るのか、新しいパートナーの人生の先導者としてまた大いに活躍してくれることを望みます。

いつの日か「アイバンク登録」が当たり前の行為となるように切に願っています。

ほんの小さな光のプレゼントを贈ります。

## 素敵な人生を

宮岸 武

先ず、私にこの世に生を授けて下さった神に感謝しよう。

次に、五体満足に生んでくれた両親に感謝したいと思う。

贅沢を言えば切りがないが、この歳になるまで大きな病気や怪我をすることなく、波瀾万丈ではないが楽しいことを沢山経験させて戴き、良き伴侶を得て自分の命も子や孫に繋ぐこともできた。

友と呼べる友人達や良き先輩後輩とも巡り会え、仕事や奉仕活動を通じて気持ち良い仲間とも知り合えた。

それをささやかと言うか、素晴らしいと思えるか、自分の心の持ち方一つであろうと考えるが、自分は素晴らしい人生であったと確信している。

そんな素晴らしい素敵なことを沢山見つめることができたこの自分の目を是非誰かに献上して、同じように素敵な人生を送って戴きたいと思う。

さて、残り少なくなった人生、後少しだけ愉ませて貰います。

## 献眼を決意するまで

畠山満喜子

ある日、一首の短歌に出会って驚きました。  
〈譲り得る臓器もちたるわがからだ青葉のもとに  
いまだわがもの 玉井清弘〉

## ずっとみんなを見ていたい

西岡 宏樹

父と母の子として生まれて五十二年余り。山のような父、海のような母にずっと見つめ続けられ、最愛の娘二人の親として、見つめ守ってることが出来て、こんな当たり前でありながら、奇跡のような幸せな毎日を過ごしてきました。

そして娘たちにも、父となった私を見つめられて二十六年がたちました。

もし、私が見つめることが出来なかったら、見つめられる事がなかったら……。

見つめることが当たり前に出来てきた私には、想像もつかない辛さや、悔しさが存在するのだと思います。

その時が来て旅立つとき、離れてしまっても家族の絆は最愛の人を見つめ続けることが出来るでしょう。

今までの幸せをいっぱい見つめてきた私の瞳が、どこかで誰かの新しいこれからの幸せを見つめることが出来るのなら……。

ずっと、誰かの幸せを見ていたい。

そしてずっとみんなを見ていけるでしょう。

## 人生五十年目の遺言

二川 隆次

「人生五十年、下天のうちを比ぶれば、…」世が世なら、自分も人生の終焉を迎える年になった。これまでの自分を改めて振り返ってみると、家族、仕事、結婚、様々な岐路があり、知人紹介でライオンズクラブに入会し早十年、献眼登録は、そんな入会二年目に何の迷いもなくサインした。運転免許証の裏には臓器提供にもサインをし、何かあれば役に立つものは全て提供しようと心に決め、家族にも伝えてある。この先どの位、生かされているかわからないが、色々な方に助けてもらい又迷惑を掛けながら今日まで来られた自分が最後位、人に喜ばれ人生を終えるのも、かっこいいかなと思う。

## 生きた“あかし”

金井 澄子

灰になってしまう私共の眼が、再び光を灯して甦る。曾てこんなことは考えられもしなかった。今も沢山の方々がその角膜を待っておられます。私の眼もそのままお役に立てばこんなうれしいことはありません。

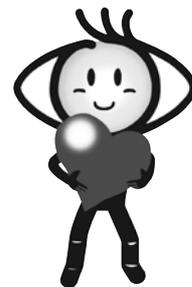
私の九十二歳の人生の中で、何時もお役に立ってくれたこの眼!! ちゅうちょなく先人のお後に従おうと決めています。私が生きたこの世での“あかし”の眼が再び輝く日を思い、私の存在した、たしかな力としてお役に立ってくれることを!!

## 立山連峰を見て感動を

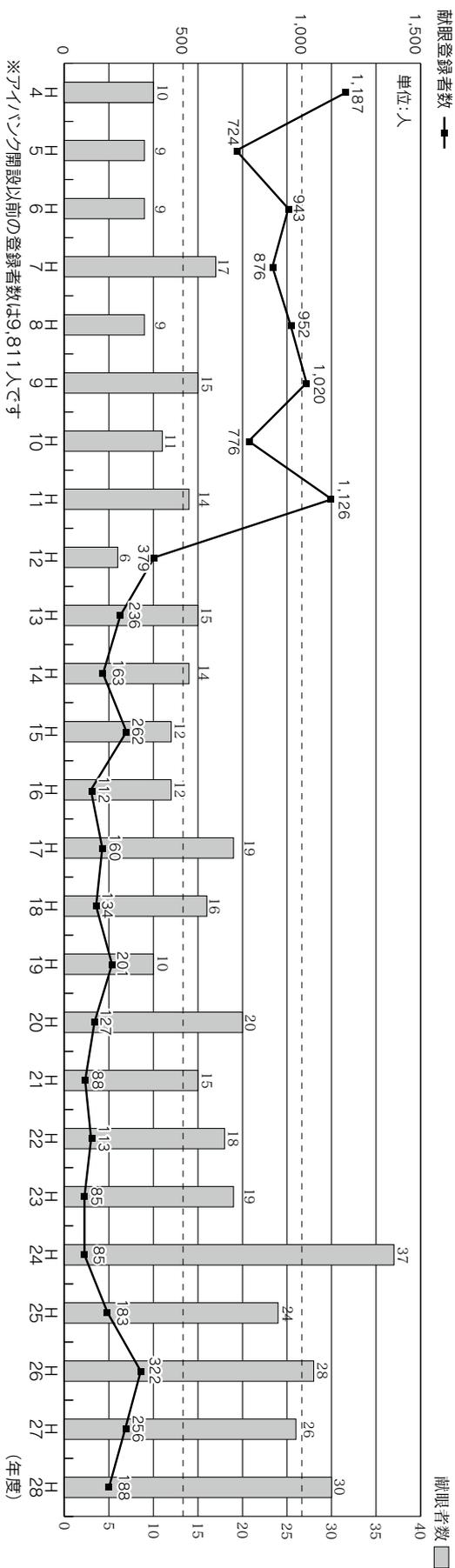
笠島 學

献眼というと、まず井村東司三元理事長のことを想い致します。同じ医療人として、病に冒された先生を、最期は病院で私がお世話できたのは幸運でした。戦友が殆ど死亡した南方で戦ったことやマラリア熱が流行したことなどを、ユーモアを交えて淡々と話されたのが印象的でした。一人は男性に、一人は女性に献眼したいと希望され、その通りになり、先生は今も我々を見つめておられます。

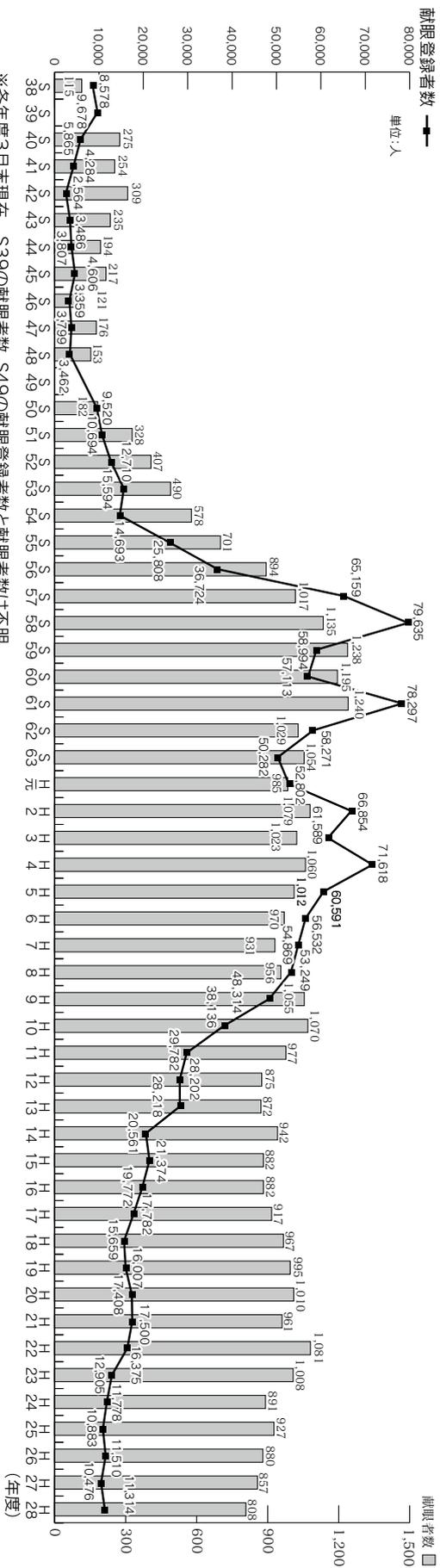
人は死を避けられませんが、角膜は百歳を超えても移植できると言われていました。私の角膜で、光を取り戻すことができる人がいたら素晴らしいことです。老若男女は問いません。立山連峰を見て感動していただければ、と思っています。



## 富山県の年度別・献眼登録者及び献眼者数の推移



## 全国の年度別・献眼登録者及び献眼者数の推移



# 全国アイバンク(眼球銀行)一覧表

(平成29年2月20日現在)

アイバンク名	〒	所在地	TEL
(一財)北海道アイバンク	060-8543	札幌市中央区南一条西16 札幌医科大学附属病院眼科内	011-611-1189
NPO旭川医大アイバンク	070-0035	旭川市5条通13丁目右2号2F	0166-74-5255
(公財)弘前大学アイバンク	036-8563	弘前市本町53 弘前大学医学部附属病院内	0172-39-5095
岩手医大眼球銀行	020-8505	盛岡市内丸19-1 岩手医科大学附属病院事務部医務課内	019-651-5111
(公財)東北大学アイバンク	980-8574	仙台市青葉区星陵町1-1 東北大学医学部眼科学教室内	022-728-3677
(公財)あきた移植医療協会	010-0874	秋田市千秋久保田町6-6 秋田県総合保健センター5F	018-832-9555
(公財)山形県アイバンク	990-9585	山形市飯田西2-2-2 山形大学医学部附属病院内	023-628-5963
(公財)福島県臓器移植推進財団	960-8670	福島市杉妻町2-16 福島県保健福祉部地域医療課内	024-521-9027
(公財)茨城県アイバンク	310-0845	水戸市吉沢町223-1 小沢眼科内科病院 分室2F	029-306-9390
(公財)栃木県アイバンク	320-0063	宇都宮市陽西町1-37 護国会館内	028-624-1010
(公財)群馬県アイバンク	371-0026	前橋市大手町3-9-16	027-237-5008
(公財)埼玉県腎・アイバンク協会	330-0062	さいたま市浦和区仲町3-5-1 県民健康センター内3F	048-832-3300
(公財)千葉県アイバンク協会	260-8670	千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部眼科教室内	043-222-6803
角膜センター・アイバンク	272-0824	市川市菅野5-11-13 東京歯科大学市川総合病院内	047-324-1010
順天堂アイバンク	113-8431	文京区本郷3-1-3 順天堂大学医学部内	03-3813-3111
慶應義塾大学病院眼球銀行	160-8582	新宿区信濃町35 慶應義塾大学病院内	03-5363-3942
(福)読売光と愛の事業団眼球銀行	100-8055	千代田区大手町1-7-1 読売新聞東京本社内	03-3217-3473
杏林アイバンク	181-8611	三鷹市新川6-20-2 杏林大学医学部附属病院内	0422-47-5511
(公財)かながわ健康財団 腎・アイバンク推進本部	231-0037	横浜市中区富士見町3-1 神奈川県総合医療会館5階	045-242-3961
(公財)山梨県アイバンク	409-3898	中央市下河東1110 山梨大学医学部内	055-273-6776
(公財)長野県アイバンク・臓器移植推進協会	380-0928	長野市若里7-1-5 長野県医師会館内	026-226-1516
(公財)新潟県臓器移植推進財団	950-8570	新潟市中央区新光町4-1 新潟県福祉保健部健康対策課内	025-283-4880
<b>(公財)富山県アイバンク</b>	<b>930-0194</b>	<b>富山市杉谷2630 富山大学医学部内</b>	<b>076-434-5710</b>
(公財)石川県アイバンク	920-8641	金沢市宝町13-1 金沢大学附属病院眼科教室内	076-265-2405
(公財)福井県アイバンク	918-8503	福井市和田中町舟橋7-1 福井県済生会病院内	0776-23-1315
(公財)岐阜県ジーン・アイバンク協会	501-1194	岐阜市柳戸1番1 岐阜大学医学部附属病院内	058-215-6302
(公財)静岡県アイバンク	431-3192	浜松市東区半田山1-20-1 浜松医科大学医学部附属病院内	053-433-3331
(公財)愛知県アイバンク協会	460-0008	名古屋市中区栄4-15-23 ライオンズマンション久屋公園2階	052-263-0832
(公財)三重県角膜・腎臓バンク協会	514-8570	津市広明町13 三重県健康福祉部医療対策局医務国保課内	059-224-2333
(公財)滋賀県健康づくり財団 腎・アイバンクセンター	520-0801	大津市におの浜4-4-5	077-525-2733
京都府立医大アイバンク	602-8566	京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465	075-251-5127
(公財)体質研究会アイバンク	606-0805	京都市左京区下鴨森本町15 生産開発科学研究所4F	075-702-0824
(公財)大阪アイバンク	565-0871	吹田市山田丘2-2 大阪大学医学部銀杏会館内	06-6875-0115
(一財)奈良県アイバンク	634-8522	橿原市四条町840 奈良県立医科大学附属病院眼科内	0744-22-3051
(公財)わかやま移植医療推進協会	640-8268	和歌山市広道20番地 第3田中ビル603	073-424-7130
(公財)兵庫アイバンク	650-0017	神戸市中央区楠町7-5-2 神戸大学医学部附属病院内	078-382-6046
(公財)鳥取県臓器・アイバンク	683-8504	米子市西町36-1 鳥取大学医学部内	0859-34-4809
(公財)ヘルスサイエンスセンター島根(しまねまごころバンク)	693-0021	出雲市塩冶町223-7	0853-22-2556
(公財)岡山県アイバンク	700-0923	岡山市北区大元駅前3番57号	086-223-6622
(公財)ひろしまドナーバンク	734-8551	広島市南区霞1-2-3 広仁会館内	082-256-3523
(公財)やまぐち移植医療推進財団	753-8790	山口市滝町1-1 山口県健康福祉部医療政策課内	083-932-0743
(公財)徳島アイバンク	770-8503	徳島市蔵本町3-18-15 徳島大学医学部眼科学分野内	088-633-7163
(公財)香川アイバンク	760-0017	高松市番町1-10-35 香川県社会福祉総合センター内	087-861-4618
(公財)愛媛アイバンク	790-0003	松山市三番町4丁目5番地3 愛媛県医師会館内	089-913-7786
NPO高知アイバンク	780-0870	高知市本町3-6-10	088-823-2035
(公財)福岡県医師会アイバンク	812-8551	福岡市博多区博多駅南2-9-30 福岡県医師会内	092-431-4564
久留米大学アイバンク	830-0011	久留米市旭町67 久留米大学医学部眼科学教室内	0942-35-3311
(公財)佐賀県アイバンク協会	849-8501	佐賀市鍋島5-1-1 佐賀大学医学部眼科内	0952-31-6511
(公財)長崎アイバンク	852-8501	長崎市坂本1-7-1 長崎大学病院眼科学教室内	095-819-7517
(公財)熊本県移植医療推進財団	861-8520	熊本市東区長嶺南2-1-1 日本赤十字社熊本県支部内	096-384-2111
(公財)大分県アイバンク協会	879-5593	由布市挾間町医大ヶ丘1-1 大分大学医学部眼科学講座内	097-549-1411
(公財)宮崎県アイバンク協会	880-0023	宮崎市和知川原1-101 宮崎県医師会館内	0985-22-5180
(公財)鹿児島県角膜・腎臓バンク協会	892-0838	鹿児島市新屋敷町16番408-B-2号	099-295-6420
(公財)沖縄県アイバンク協会	901-2112	浦添市沢岬2丁目2番1号4F 沖縄県保健医療福祉事業団内	098-917-1170
(公財)日本アイバンク協会	101-0054	東京都千代田区神田錦町3-2三基ビル4階	03-3293-6616

# 公益財団法人 富山県アイバンク設立25周年記念大会組織図

名誉大会顧問
石井 隆一 富山県知事

大会顧問
中川 忠昭 富山県議会議員・富山県アイバンク相談役

渡辺 守人 富山県議会議員・富山県アイバンク相談役
------------------------------

高田 順一 富山県アイバンク名誉顧問
-----------------------

狩野 俊哉 富山県眼科医会会長
--------------------

名誉大会長
-------

高田 眞 富山県アイバンク前理事長
----------------------

大会長
-----

大黒 幸雄 富山県アイバンク理事長
----------------------

副大会長
------

前田 彰久 富山県厚生部長・富山県アイバンク理事
-----------------------------

伊勢 豊彦 富山県アイバンク前副理事長
------------------------

宮岸 武 富山県アイバンク前副理事長
-----------------------

本村 哲明 富山県アイバンク元副理事長
------------------------

野村 謹吉 富山県アイバンク前常務理事
------------------------

大会実行委員長
---------

磯野 敏雄 富山県アイバンク副理事長
-----------------------

大会副実行委員長
----------

木村 正明 富山県アイバンク常務理事
-----------------------

大会事務局長
--------

牧 亨 富山県アイバンク副理事長
---------------------

大会副事務局長
---------

森 弘 富山県アイバンク常務理事
---------------------

総務委員会
-------

委員長 石村 正男
-----------

○井村 昭彦	車 司	高見 隆夫	泉野 正人
高松 丈志	内野 忠	石坂 昭	橋本 篤
渡辺 誠治	北林 和正	長原 好成	

大会委員会
-------

委員長 山田 真功
-----------

○宮本 眞弓	苗加 康孝	豊岡 正	中嶋 進
木村 貴之	高田 重信	五十嵐 務	毛利 功
清河 衛	車 啓三	坂東 昭	

大会記念事業委員会
-----------

委員長 筏井 晴夫
-----------

○畠山 志郎	池田 善揮	中尾 順一	高松 和宏
松岡 秀子	長谷川修博	山口 清	弓野 久和
工藤 光也	堀 正	伊藤 光雄	

式典・会場委員会
----------

委員長 門前 昌志
-----------

○寺崎 達二	小川 慶二	熊野 清	上田 和男
高瀬 清春	辻井 益雄	菅野 寛二	森田 誠一
飯田 和男	片山 和行		

献眼及び献眼登録啓発事業委員会
-----------------

委員長 福田 義久
-----------

○鋪田 博紀	山崎 泉	梅木 一隆	栗山 雅明
小山 登	岡本 葉子	山口 勝康	渡辺 隆英
若森 征雄	新多 勇人	石黒 稔	

接待委員会
-------

委員長 金井 澄子
-----------

○藤塚由紀子	藤巻 篤子	中田 眞法	田邊ゆかり
--------	-------	-------	-------

救護委員会
-------

委員長 笠島 學
----------

○林 篤志	板野 吉秀
-------	-------

○印は、副委員長

## 賛助会員ご加入および寄附金・募金のお願い

アイバンクは、角膜疾患によって目の不自由な方のために献眼者の募集と移植希望者の募集等の事業を行っています。ひとりでも多くの方に光のプレゼントができるよう努力していますが、そのためには多額の運営資金が必要となり、この事業費は基本財産の運用収入のほか賛助会員費、寄附金収入を主なる財源として充てております。皆様の格別のご理解ご協力をお願い申し上げます。

### ● 賛 助 会 費 ●

団体・法人会員	年会費	1口	10,000円
個人会員	年会費	1口	3,000円

※賛助会員にご加入いただける方は事務局までご連絡ください。

TEL：076-434-5710 E-mail：info@toyama-eyebank.com

口座引落としについてお知らせいたします。

※寄附金・募金については振込用紙にてお振込みください。

この寄附金は、法人・個人を問わず法規に基づき、所定の減免手続きにより、寄附金控除の対象となります。さらに個人の場合は、法規に基づき、所定の減免手続きにより、寄附金税額控除の対象となります。詳しくは、事務局までお問い合わせください。

### 公益財団法人 富山県アイバンク事務局

〒930-0194 富山市杉谷2630 富山大学医学部内

TEL(076)434-5710 FAX(076)436-0146

URL:www.toyama-eyebank.com

E-mail:info@toyama-eyebank.com

## 編集後記

「富山県アイバンク」は平成3年に設立され今年で四半世紀になり、この間多くの県民皆様の温かいご理解とご協力のもとに25周年を迎えることができました。

ヘレン・ケラー女史がライオンズクラブの国際大会で「盲人のために暗闇と闘う騎士となってください」と呼びかけてから世界中のライオンズが視力保護活動に取り組んできました。

この献眼運動がライオンズの一燈から、県民の皆様に輪が広がり万燈となればこんなに嬉しいことはありません。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに貴重な原稿をいただきました各位に深謝申し上げます。

大会記念事業委員会 委員長 筏井晴夫

## 25年のあゆみ

### 富山県アイバンク25周年記念誌

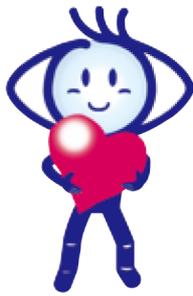
発行日 平成29年10月15日

---

編集・発行 公益財団法人富山県アイバンク  
富山市杉谷2630  
富山大学医学部内  
TEL 076-434-5710

発行人 大黒 幸雄  
印刷 株式会社すがの印刷

---



アイバンクは目の見えない方のための  
角膜登録をいただく機関です。